

2週間気温予報（概況）

北海道地方の気温は、向こう4日間程度は暖かい空気が流れ込みやすいため高い日が多いでしょう。その後は平年並の日が多い見込みです。

東北日本海側、北陸地方、近畿日本海側の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため平年並か高い日が多いでしょう。

東北太平洋側、関東甲信地方、東海地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高い日が多く、かなり高い日もあるでしょう。農作物の管理等に注意するとともに、熱中症対策など健康管理に注意してください。

近畿太平洋側、中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部、沖縄・奄美の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう5日間程度は平年並か高く、その後はかなり高い日もあるでしょう。農作物の管理等に注意するとともに、熱中症対策など健康管理に注意してください。

2週間先までの天候に関する解説のポイント

気温の変化傾向と要因

- 北海道地方の気温は、向こう4日間程度は暖かい空気が流れ込みやすいため高い日が多い。その後は平年並の日が多い。
- 東北日本海側、北陸地方、近畿日本海側の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため平年並か高い日が多い。
- 東北太平洋側、関東甲信地方、東海地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高い日が多く、かなり高い日もある。
- 近畿太平洋側、中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部、沖縄・奄美の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう5日間程度は平年並か高く、その後はかなり高い日もある。

大気の流れの見通し

- 実況：500hPa高度場はバイカル湖の西付近がリッジ、沿海州から日本海付近にかけてトラフとなっている。また、日本のはるか東のリッジが強く、北・東日本中心に高度場が高い。地上では、中国東北区と東シナ海付近に寒気を伴った高気圧があり、また日本のはるか東に中心をもつ高気圧が日本の南に張り出している。850hPa気温は、北・東・西日本を中心に正偏差、沖縄・奄美付近は負偏差。
- 対流活動：実況ではインド洋西部と太平洋西部で対流活動が活発。今後2週目にかけてインド洋西部の対流活発域は太平洋西部へ東進する。
- 1週目：500hPa高度場では日本付近はトラフとなり、地上では、22日から23日にかけて低気圧がサハラ付近を通過し、高気圧が日本海を東に進む気圧配置が続く。日本のはるか東で高気圧が強い状態が継続し、東・西日本、沖縄・奄美を中心に南から暖かい空気が流れ込みやすく、850hPa気温は正偏差。
- 2週目：日本付近は西谷の傾向が継続し、日本のはるか東では高気圧の強い状態が継続。ベンガル湾付近の活発な対流活動に対応して沖縄の南付近では高気圧が西に張り出すため、東・西日本と沖縄・奄美を中心に南から暖かい空気が流れ込みやすい。また、カムチャッカ半島付近の低気圧後面の寒気により北海道を中心に850hPa気温が負偏差。その後低気圧が東に進み、この負偏差は解消する。

前回（5月16日）の早期天候情報検討時の見通しとの違い

北陸地方と近畿日本海側の22日頃からの「かなり高い」の可能性が小さくなった。東海地方、近畿

太平洋側、中国・四国地方、九州北部・南部、沖縄・奄美の早天初日が3日程度以上後ろにずれた。

最新の2週間気温予報は、

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

を参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する2週間気温予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。